

# 小学校 第1学年 音楽科 学習指導案

北海道旭川市立神楽小学校  
教諭 三村 仁

**題材名** はくと リズム (7時間)

**題材の  
ねらい**

- 曲想とリズムや拍など音楽の構造との関わりや、身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出す面白さなどに関わらせて気付くとともに、思いに合った表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。
- リズムや拍などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲想を感じ取って表現を工夫し、どのように歌うかについての思いをもったり、音遊びを通して音楽づくりの発想を得たりする。
- 拍に合わせていろいろなリズムで表現することや歌う学習に興味をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に学習活動に取り組み、リズムや拍などに親しむ。

**本時の  
ねらい**

リズムの働きが生み出すよさや面白さを感じ取りながら、音遊びを通して音楽づくりの発想を得る。(第5時)

**指導時期**

6月下旬～7月中旬

### 指導者用デジタル教材活用の意図・目的

#### 【従来からの課題】

低学年の児童は、自由な発想で音を組み合わせたり、リズムをつくったりすることを楽しむ素質がある一方で、発達段階的に、音楽の要素（リズムや旋律、強弱など）を言語化することが難しいところがある。また、幼児期の経験を通してさまざまな楽器に触れているが、楽器の操作や適切な音の出し方がまだ十分に習得できていない実態がある。

そのため、教師は、児童が視覚的に理解できる掲示物や、正しい楽器の奏法を指導するさまざまなコンテンツを準備する必要がある。

#### 【「指導者用デジタル教材」への期待】

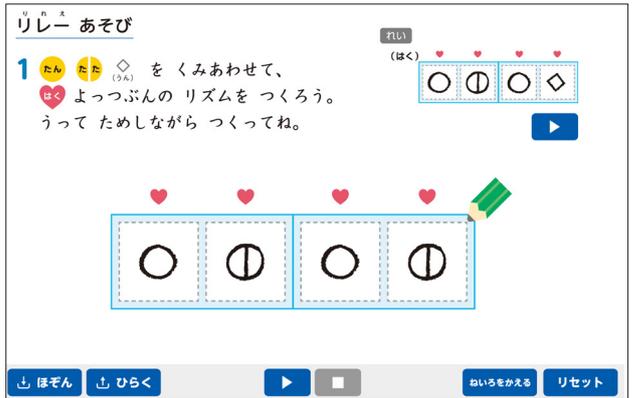
「指導者用デジタル教材」では、これまで教師が工夫して準備してきたコンテンツが充実しており、上記のような困難さを解決しながら授業を進めることが期待できる。

紙面の一部をクリックするだけで拡大表示することができるため、基本的には掲示物の準備をする手間が省ける。

歌唱の教材では、図譜（旋律）と伴奏譜を瞬時に切り替えることが可能であることに加え、小節ごとに色がつき、どの部分を演奏しているのかがわかりやすいため、多くの児童にとって音楽に親しむことができるコンテンツであるといえる。

音楽づくりの教材では「たん」「たた」「うん」を選択して組み合わせることで、4拍分のリズムをつくり、すぐに再生して確かめることができる。また、音色が数種類用意されていたり、実際の楽器の奏法を確認できる動画にリンクしたりと、児童の自由な発想を生かしてテンポよく授業を展開することができる。

本時(第5時)の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>●「指導用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> <li>●「目次を開く」から「たんと たたの リズムであそぼう」のページを表示する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前時を想起し「まねっこ あそび」や「よびかけっこ あそび」をする。</li> <li>●最初はp.22「いろいろなリズムの れい」を使う。次に、教師が即興で行うリズムにする。</li> <li>●「まねっこ あそび」や「よびかけっこ あそび」を児童同士で行う。</li> <li>●🎧：うまくいかない。</li> <li>●🎧：途中で止まってしまう。</li> <li>●🗣️：どうしたらうまくできそうかな。</li> <li>●🎧：リズムを考えて練習したいな。</li> </ul>	 
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>●みんなが考えたリズムをつなげて「リレー あそび」をすることを知らせる。</li> <li>●p.23を表示して、4拍分のリズムを考えることを知らせる。</li> <li>●児童とのやり取りを通して「たん」「たた」を組み合わせたリズムをつくり、再生する。…①</li> <li>●「うん」を入れたリズムをつくり、再生する。…②</li> <li>●①や②を何通りか行ったら、児童が座っている列ごとに同じリズムでリレーをしてみる。</li> <li>●ツールバーから「メトロノーム」を起動し、適度なテンポに合わせてリズムを打ってみる。特に「うん」が拍に合うように、メトロノームの点滅に合わせることを指導する。</li> <li>●ワークシート（まなびリンクにあり）に、自分で打ちたいリズムを考え、記入する。</li> <li>●3～4人のグループをつくり、ワークシートに記入したリズムを使って「リレー あそび」をする。</li> <li>●手拍子だけでなく、楽器も使えることを知らせる。</li> <li>●「まなびリンク」にアクセスし、楽器の奏法を確認する。</li> <li>●再度、3～4人のグループをつくり、選んだ楽器を使って「リレー あそび」をする。</li> </ul>	 

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 次回で扱うp.25-26において、本時で考えたリズムが使えることを知らせる。</li> <li>◎：タンブリンでやってみたいな。</li> <li>◎：みんなで打つと楽しそう。</li> </ul>	

### 指導者用デジタル教材を活用したことで得られた効果

これまで自作のコンテンツを準備する必要があったが、指導に必要なコンテンツがある程度揃っていることにより、授業の準備時間が大幅に短縮できる。また、児童と同じ教科書の紙面がベースになっていることから、直感的に操作しやすい。コンテンツ切替時のタイムラグが少ないことは、スムーズな授業展開につながる。

展開①・②の場面では、その場で作成したリズムを随時保存することができるため、時間が経過した後でも、データを開いて使用することができる。

メトロノームは、この題材を含めて多くの場面で使用できる。本時においては、拍を意識してリズムをうつことで「リレーあそび」がより楽しいものとなる。特に、8分音符にあたる「たた」や、4分休符にあたる「うん」は、1拍分のリズムであることから、メトロノームの音と点滅表示の補助によって、適切にリズムを打つことができる。